

地方都市行政調査 報告書

委員会	建設委員会		
調査年月日	令和7年10月29日(水)	調査場所	兵庫県姫路市(現地視察:姫路駅)
委員	委員長 いいくら 昭二 副委員長 小 泉 ひろし 副委員長 むかが 和 子 委員 吉 岡 茂 委員 市 川 おさと 委員 くじらい 実 委員 富田けんたろう		

調査項目	姫路駅周辺のトランジットモール化事業について
調査の目的	<p>姫路市では、国鉄の姫路駅高架化構想に関連し、県の山陽本線立体交差事業と合わせて姫路駅前区画整理事業を開始した。公共交通の車両のみが通行でき、歩行者優先の空間がトランジットモール化の主な特徴である。姫路駅では、駅前空間の構築だけでなく実証実験などを通じ、播磨地域を代表する玄関口として文化発信・賑わい創出の拠点が整備されている。これらの取り組みについて、調査・研究を行う。</p>
調査内容	<p>平成20年に都市計画決定された市の素案をもとに、各関係団体から寄せられた提案とすり合わせ、方向性を策定。計17回の推進会議を行い、平成27年に事業が完了した。駅前のエントランスゾーン整備に加え、国鉄跡地を活用した商業、教育のコアゾーン、公園やコンベンションセンターなどのイベントゾーンが整備されている。</p> <p>駅前のトランジットモール化に加え、歩行者利便増進道路制度の活用により、駅から姫路城までの大手前通りも歩行者優先の歩道拡幅整備が進められ、令和元年からは歩行者空間を活用したイベントが行われた。</p> <p>駅周辺で開催されたイベント開催件数はコロナ禍で一時的に減少したものの近年では増加傾向であり、駅前の地価公示価格変動率も整備前の前年度と比較して、25%増加している。</p>
主な質疑	<p>(問) 駅前ビルの移設について、権利関係はどのようなになったのか。</p> <p>(答) 建物を商業施設としての回遊性を高めることで、双方の利益が生まれるとの観点から移設の合意形成に至った。</p> <p>(問) 内々環状道路の車両通行禁止区域について、自転車はどのような扱いになっているか。</p> <p>(答) 道交法で自転車は車両なので、自転車を押して通行すれば問題ない。しかし現実では自転車乗車通行もあるので、市としては看板などで啓発している。</p> <p>(問) にぎわい創出のための社会実験では、継続・停止判断のための目標値などはどうしたか。</p> <p>(答) 潜在ニーズを発掘、分析するために基準は設けていない。とりあえずやってみようというコンセプトで社会実験し、使い方の提案もできるようにした。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	<p>姫路市は、自治体として関係各所と密な連携のもと都市計画等で方針を策定し、賛同を得ている。当区においても、歩行者優先の駅前空間や周辺の賑わい創出に取り組む姿勢は大いに参考となるものである。</p>

地方都市行政調査 報告書

委員会	建設委員会		
調査年月日	令和7年10月30日(木)	調査場所	大阪府吹田市(現地視察:江坂公園)
委員	委員長 いいくら 昭二 副委員長 小 泉 ひろし 副委員長 むかが 和 子 委員 吉 岡 茂 委員 市 川 おさと 委員 くじらい 実 委員 富田けんたろう		

調査項目	Park-PFI を含めた江坂公園の魅力向上事業について
調査の目的	吹田市では、都市公園の魅力と利便性向上を図るために、公園の整備を行う民間の事業者を公募・選定する Park-PFI 及び指定管理者制度を活用し、老朽化した江坂公園の課題を解決するとともに本公園に新たな魅力を創出することを目的として当公園を整備、令和5年4月にリニューアルオープンした。これらの取り組みについて、調査・研究を行う。
調査内容	<p>吹田市では、令和元年度にサウンディング型市場調査を開始。事業者ニーズを把握すると同時にワークショップや社会実験によって市民ニーズを把握することで、公園の将来性や地域で求められている公園像を的確に抽出し、目指すべき姿として令和2年度に「吹田市都市公園等整備・管理方針」を策定した。</p> <p>都市公園に民間のノウハウを活用することで、インクルーシブデザインに配慮した公園遊具に改修することやカフェやショップなどを併設することによって市民の利便性を向上させるなど、地域活性化と課題解決に役立っている。</p> <p>整備後も公園を使う市民プレイヤーの発掘などにより、公園の魅力向上事業として持続的な運営が可能となる体制も整えられている。</p>
主な質疑	<p>(問) プロポーザル方式の応募数はいくらか。</p> <p>(答) 1社のみ応募。上限金額を超えた提案のため再公募したが、赤字覚悟の提案でもう一度応募していただいた。</p> <p>(問) ドッグランは整備されているか。</p> <p>(答) 千里北公園や中の島公園などで社会実験を行ったが、住宅地の中では騒音などで実用化が難しいとの結論に至った。</p> <p>(問) 都市公園法によって、一般的な公園内にはコンビニや飲食店を建てることは難しいのではないか。</p> <p>(答) 江坂公園内の施設は都市公園施設であり、公園を利用する人のための施設のため、法の範囲内。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	江坂公園の Park-PFI を活用した公園整備事業は、地域ニーズを活かしながら民間の活力を導入し、住民に憩いの場を提供している。公園面積が多い当区にも大変参考になるものである。

地方都市行政調査 報告書

委員会	建設委員会		
調査年月日	令和7年10月31日(金)	調査場所	静岡県静岡市
委員	委員長 いいくら 昭二 副委員長 小 泉 ひろし 副委員長 ぬかが 和 子 委員 吉 岡 茂 委員 市 川 おさと 委員 くじらい 実 委員 富田けんたろう		

調査項目	しずおかM a a S 基幹事業実証プロジェクトについて
調査の目的	静岡市では、地域住民や旅行者一人ひとり単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通や移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであるM a a S を取り入れ、民間団体と協働して実証実験を行っている。これらの取り組みについて、調査・研究を行う。
調査内容	<p>静岡型M a a S では、A I 相乗りタクシーの実証運行、鉄道・路線バス・タクシーなどの異なる交通モードの連携、その他の検討業務として生活関連施設（商業施設・病院等）との連携や公共交通マーケティング（広告事業）の可能性調査等を実施し、実証実験を重ねてきた。</p> <p>令和元年から令和5年にかけて、サービス設計に係る乗合型のニーズ調査、使用実態に合わせた予約・支払システムの導入、乗降所を結ぶ形式と Door to Door 形式の比較、高齢者と子育て世代が利用しやすいサービス・料金設定の導入、山間部と市街地で異なるニーズに合わせたサービス提供など、様々な施策を行った。</p> <p>全国的に問題となっているドライバーの担い手不足や収支バランス、地域交通弱者への公共サービスの在り方など、蓄積されたデータをもとに課題解決に向けて取り組んでいる。</p>
主な質疑	<p>(問) L I N E アプリで配車予約するとは、静岡市公式L I N E から直接予約できるということか。</p> <p>(答) 静岡市公式L I N E から、委託事業者の配車サイトへのリンクを案内できる仕組みがある。</p> <p>(問) 事業を始めるきっかけとして、地域住民から交通不便解消を求める声はなかったのか。</p> <p>(答) 公共交通に対する不満感、要望は実際にあるが、事業を始めてみても利用は思うほど増えなかった。</p> <p>(問) 山間部地域に公共交通はなかったのか。</p> <p>(答) 公共交通はあるが、3時間に1本程度でとても少ない。将来的にはその交通を補完するような形を目指している。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	高齢化やドライバー不足が問題となる中、地域に必要な交通ネットワークの構築、維持は当区においても重要なテーマである。静岡市の実証実験の蓄積によって得られた知見や市の姿勢は大変参考になるものである。